

特集

ヘルスサービスリサーチ

サービスの効率と質の向上へ

人口の高齢化，疾病構造や社会状況の急激な変化に伴って，わが国の地域における健康課題は山積みとなってきています．それらに対応するには医療と社会サービスとの緊密な連携が必須であり，各種サービス提供のあり方は大きな転換を迫られています．保健医療制度や医療教育も，単一疾病の克服に対応するものから，多くの疾病を抱えつつ良い生活が送れるような支援に向けての再構築が必要とされています．

ヘルスサービスリサーチ (health services research: HSR) は医療を主な対象とし，患者のニーズやアクセス，提供されるサービスの質，そして利用後の状況 (アウトカム) を含めて包括的に研究する分野として欧米中心に発展してきましたが，上述したような社会の変化に伴って，保健・医療・介護の連携が重要となり，関連するサービスを包括的に捉え研究することが HSR の重要な役割と考えられるようになっていきます．

日本は諸外国と比べると，依然としてデータアクセスや活用のノウハウが遅れている部分もあります．しかし，昨今，データに基づく医療介護政策が重要視されており，「見える化」など，レセプトデータや国の統計を利用したデータ指標を現場関係者が活用する仕組みづくりや，二次利活用のために研究者に公開する仕組みづくりが推進されています．

本特集は，医療に限らず，地域の保健，介護領域も含め，国のマクロ政策の視点，研究の現状，地域の実践事例，そして海外の状況などをご紹介します．ヘルスサービスリサーチについて，読者の皆さまと今後の課題などを共有したいと思い企画しました．タイトルにはあえて「医療」を用いず，また，日本での発展を踏まえて，カタカナで「ヘルスサービスリサーチ」としました．本特集が，地域のサービス向上につながるきっかけになれば幸いに思います．

田宮菜奈子 (筑波大学医学医療系ヘルスサービスリサーチ分野教授)